



第51回笑雲 caféの様子

2025年問題
5人に1人が後期高齢者！

今年4月に3年に一度の介護報酬改定がおこなわれます。今回の改正は介護報酬に加えて診療報酬・障がい福祉サービス報酬の3つが同時に改定するトリプル改定の年にあたり、「2025年問題」と「2040年問題」という大きな課題を抱えた状態での改定となっています。

2025年を目前に控えて

療ニーズの高い中重度の高
齢者の増加など介護サービ
スの需要が増え、多様化し
ていくことが考えられます。
誰ひとり取り残されない
ためにも、住み慣れた地域
で必要なサービスが切れ目
なく提供されるようにしな
ければなりません。

2040年の人口減少社会への対応、複雑化・多様化する福祉ニーズの対応、災害時等の事業継続の確保など、社会福祉法人をとりまく環境は厳しくなる中、社会福祉法人自らが継続的かつ安定したサービス「生活の場」の提供が不可欠となります。

経済的困窮、心身の障がいや高齢などにより生活に支障をきたす人々に対する支援はすべて社会福祉事業の原点です。私たちは、福祉の専門組織として、従来の高齢者・障がい者、子どもといった枠組みを超え、横断的・包括的に福祉サービスのセーフティネットとしての役割・機能を果たしていかなければなりません。これからも地域のさまざまな新しいニーズにこたえるためにも、福祉活動の実践者として、常に地域の声に耳を傾け、地域の福祉を支え続けていきたいと考えています。

様などに関する相談に
 応いたします。対象年
 は18歳未満とな
 ります。関係機
 関との連携を図
 りながらサポー
 トさせていただ
 きます。
 こころんくで
 は、障がい児相
 談支援を始める
 ことにより、児
 童から成人への
 ライフステージ
 の移行もスムー
 ズに行えるよう
 になります。お
 気軽にご相談く
 ださい。

【連絡先】 相談支援センターこころんく ☎072-733-2370
■ 特定相談支援事業 **■** 障がい児相談支援事業

新規事業のお知らせ

相談支援センター
こころんく

令和6年4月より、新たに障がい児相談支援事業が始まります。発達や知的、身体的発育に心配があるお子様や、医療的ケアを必要とされるお子

令和6年4月より、新

第52回

#SDGs みんなで考える防災

～能登半島地震～

今回の笑雲caféは、今年1月に発生した能登半島地震被災地の福祉施設へ福祉人材支援活動に参加した介護士と看護師より、被災地での体験談をお話させていただきます。

もしも自分の住んでいる地域で大地震が発生したら、どう考え、どう行動しますか？ 非常時の行動を想像し、一緒に考えてみましょう。

【日 時】令和6年4月27日(土) 13時30分～15時30分
【場 所】祥雲館ヴィレッジ・彩 あじさいデイルーム(吉川36-1)
【参加費】参加費200円(お茶菓子付き)

お申込み：祥雲館 ☎072-733-2301（4月15日まで）

※お車でお越しの場合は、申し込み時にお伝えください。

電動カート試乗体験会 in 花さんぽ

地域の高齢者や障がい者の方々が安全かつ快適に移動できる手段を提供するために、電動カートと電動歩行器の試乗会を行います。当日は福祉用具専門相談員が常駐しています。

【日 時】令和6年5月18日(土) 10時～15時

【場 所】地域交流スペース En-GAWA
(東ときわ台6-12-8)

【体験内容】所要時間30分程度（説明込み）

実際の道路を試乗していただけます

【対 象 者】 どなたでも参加いただけます

【問い合わせ】ケアプランセンター祥雲館 権神（ごんじん）まで
☎072-733-2302

※「花さんぽ」の同時開催となっております。
詳細については、後日改めてご案内致します。



能登半島地震被災地支援に行きました

今年1月に能登半島で最大震度7の地震が発生し、現地の福祉施設も甚大な被害を受け、事業存続が厳しい状況が続いています。2月1日～5日の5日間、祥雲館と連携法人の桃林会から職員3名が、かほく市の福祉施設へ支援に入りました。そこでは、輪島市で被災した介護施設の職員と利用者17名が生活されています。私たちは、早出・日勤・遅出・夜勤のシフト制で、現地職員と県外から派遣された介護士数名が交代で勤務に入りました。

現地の状況は、電気・ガス・水道といったライフラインは復旧し、利用者は安定した生活を送られていましたが、職員は、仮設住宅での生活や長時間通勤など、先行き不透明な状況の中で疲労が蓄積していることが見受けられ、介護人材不足は深刻な問題となっています。



地震後の様子



施設での食事

特に印象に残ったのは、「カレー（災害食）はもう見たくない」と言っておられたことです。近隣のスーパーで食材を購入できるような状況になっても、施設には大量の災害食を抱えて困っておられました。このように、被災地では需要と供給のミスマッチが生じる場面が多いと感じました。また、長期間にわたる災害食（パンなど）の摂取で太ってしまったという声もありました。身近な場所で災害が起きた際、私たちにできることは何でしょうか？ 今回の経験を踏まえ、常に備えをしており、災害が発生した際に迅速に対応できるよう努めることが重要だと感じました。

最後に、今なお厳しい状況下にある皆様にお見舞い申し上げるとともに、貴重な体験を積みましたこと、心から感謝いたします。

看護師 本久保 祐也

TOPICS

★「クリスマスコンサート」

昨年12月13日、ユーベルホールでクリスマスコンサートを開催しました。高齢、障がいの利用者さんが参加し、音楽に合わせて歌ったり踊ったりする場面もあり、盛り上がりしました。



★「お正月」

今年も施設長が利用者の皆さんにふるまい酒をお酌して回られ、新年のご挨拶をしました。また福笑いや花札などを童心に帰って楽しんだり、おやつの時間に抹茶をたてて和菓子と一緒にいただいたりして過ごしました。



★「第51回笑雲café」

1月27日、今回は「豊能町の魅力発見」というテーマで笑雲caféを開催しました。豊能町のいいところ探しのできた1日となりました。



★「吉川中学校1年キャリア学習出張講師」

吉川中学校1年生のキャリア学習に参加し、過疎地域豊能町の現状や介護の仕事のやりがい、当たり前前の大切さを伝えました。



★「バレンタイン」

2月14日、バレンタインには昼食とおやつにバレンタインメニューが提供されました。色々なチョコレートのスイーツを皆さんおいしそうに召し上がっていました。



祥雲館町おこしプラザ2024の予定

【森のフェスティバル】……………8月開催予定

【祥雲館トヨノコレクション2024】……………11月開催予定

マネしたくなる支援 最終回

祥雲館では、ホスピタリティを大切にした支援を実践しています。今月も実践事例を紹介します。

😊エピソード😊

訪問看護師が、いつもと同じようにCさんの自宅に訪問した時のこと、家族さんが普段と様子が違うことに気づきました。家族さんに「お体大丈夫ですか？ 気になることがあればいつでも相談してくださいね」と声をかけると、日々の介護で悩んでいることや、利用者の様子のことなど抱えこんでいることをお話しされました。

帰る際に、家族さんはいつもの表情に戻り、「お話ができて、ずいぶん気持ちがらくになりました」と言ってくれました。



★訪問した際に、利用者の方のご様子をお伺いするのはもちろんですが、普段から利用者のご家族にも気を配っていたからこそ、自然と気に掛けるお声かけができたのではないのでしょうか。この何気ない一言でご家族にも安心していただくことができました。普段から周りの方に対して気配り・目配り・心配りができているからだと思います。

編集後記

今年はコロナの行動制限もなくなり、お花見も賑わいそうですね。お花見といえば、豊臣秀吉の吉野桜や醍醐寺での花見は有名です。現在の宴会スタイルのお花見は、秀吉が催した総勢五千人規模の盛大な「吉野の花見」が起源になったという説もあります。今年は宴会スタイルのお花見や桜の名所で景色とともに、ゆっくりと桜を楽しむのもいいですね。

広報担当 宮嶋

TOPICSはホームページでも詳しくご覧いただけます。

祥雲館

検索

facebookはこちら⇒



祥雲館 facebook

検索

次号は、令和6年6月25日～30日配布予定です。